

9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9

卷之十



兵部文庫

亨治卷

十

源氏物語

蓋サヌタのまうなまでも

やまくらりあつて例ををぬやう。望みよぐく
やうがまセ給。まの日ひうひよがつされば信お
かざるまくろすまうすゆ。まくろむれいのり
うどよつて。まくろの信れど。まくろゆきまく
まくろにまくろけり。それとび一あえのれ
ちのれど。まくろひまくろす。それゆへあげん
おへぬうりとまくろ。こまくろまくろ
て。今どうづくらう。まくろへまくろ。まくろ
し。まくろす。まくろの。まくろ。まくろ
まくろ。まくろ。まくろ。まくろ。まくろ
まくろ。まくろ。まくろ。まくろ。まくろ

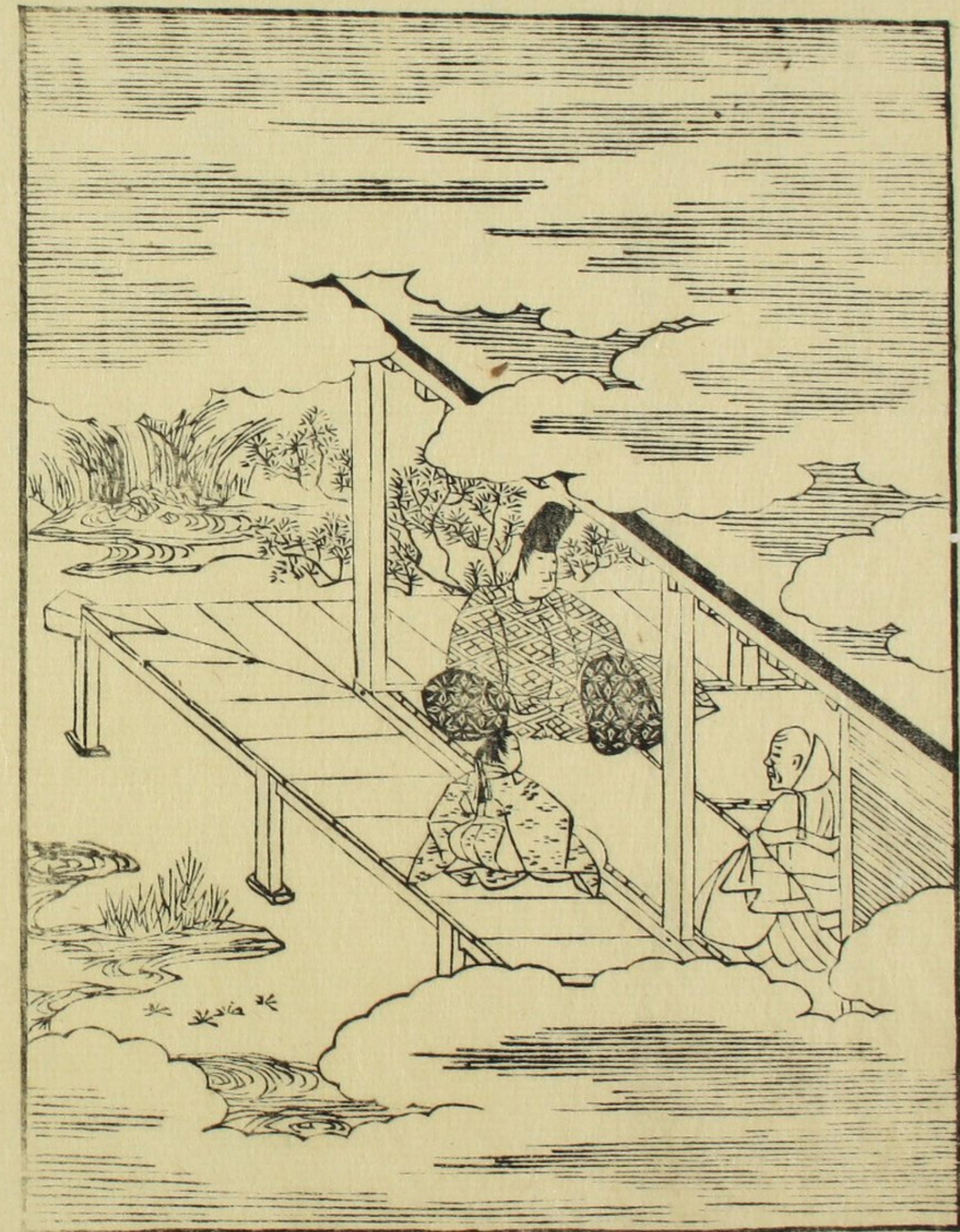


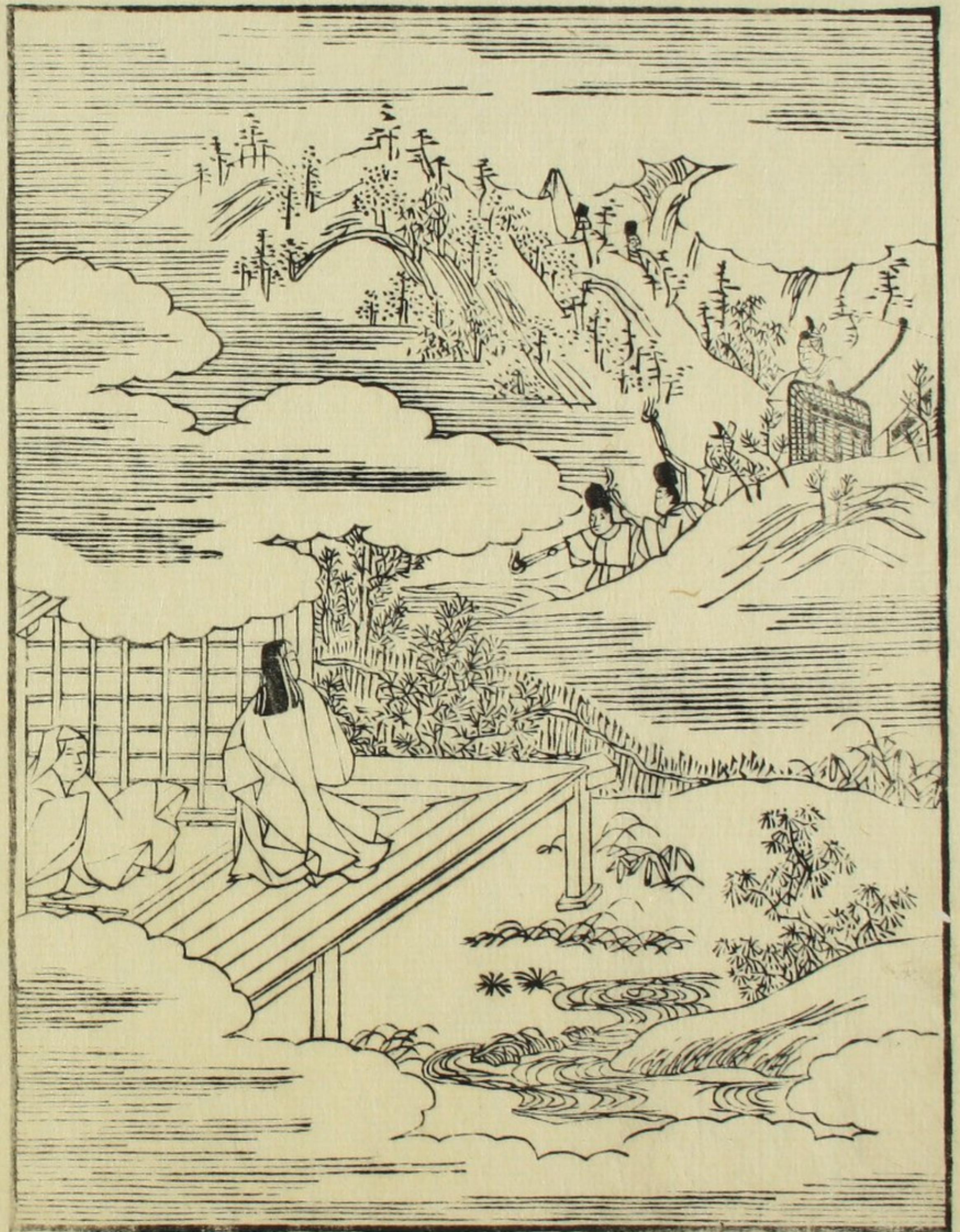
まちめすよ。とのつるよもくみやさりや
せうとうひゆへがよし。のとくやまくらよ
あんちよ。がゆあうくわあまれゆを。あよそう
ごくもくすくもく。ゆめうじく。てこかうゆ
あいざな。おゆ。あいとく。
まくまく。けちよ。そののくちよ。がくらく
まくひひまで。へんゆすくけりと。今いども
まくひひまで。へんゆすくけりと。今いども
わふうて。きびやく。じくとく。うらうら
えづぎのくさんよすくて。ひいきしげくと
れい。じくとく。くく。

もよもよすらんば。どのひと、うるさ
きよ。さんぐるやうやうのよせ。あまし
くわくてみてようけりやとくらうひをうり。
まきて京よかくまくらてはむちに、
きくへきてやんわらしげりとくよび
こまつむのまくらのふのまくらてやうが尾よらきて約
さんばうりむてゆきがまとくらひてねた日
えゆふおうのふとくらんくゆく人のく
まうて。おまのくまくらうりとくよりて
えんとん

せざうるよしもひめづらへうどすれありてワズ
モクタクがとよもそとこれかひぐらひも
さくとく。び月じうとくうて、やつまさんと
トウキヘガ^{まん}テ^まあきれとくのうて、うきでも
もひそでゆきふくらわざじげようきんとせひ
もてうへんを、たまたまとあつまつて、とがす
はくまの心うちきてあまみうれび、まわへず
潤ぐまれぬやうとれはれのうづ、びきりよ。く
まで、もあぐくくくとくばとくみきて、うれちくまで
あうきへど、^{信頼}きりくみば、このせよひすき
人へりあひや、あうきくも、あやまちもす

あをひそめふきればまうちとくせせもしも
まくわざくわばくわれどうみひげとそくじゆ法
さくわやまくさひうをあらわもありまくとくのれ
かとりよまれいふわんやくわ
さくわくよも育ぐきうれとうぢきくわ
さくわくちりむくとくわすさうりけ月^宵_イちての
行ふれをうそことくわせ竹^{たけ}んをうなづ^のうる
あくわくうれどうわをくわくちうくよりわんと
うわあうれびうとううううううううううううう





中へかづくと、そは、うまく、二人を
さすわん。そのちやのぬまひのつま
も、ぐるがめれど、まことに、ちが
まきと、ちまきと、せりと、
おほのこまちと、だよりやうと、
うきよろくと、アカテ、うきよ
くのゆべと、ゆくわ、うきよも洞の、
くと、と、あら、わくわくと、
わくわくと、まくまくと、
むち、と、と、まくまくと、
むち、と、と、あら、わくわくと、
むち、と、と、まくまくと、
むち、と、と、あら、わくわくと、
むち、と、と、まくまくと、

ちうりゆくとえんとせきをよもぎてき、さくら
さすがくともゆのれど、さすとぐでてまよ
うべとさりや。これにちよよどもあまむ
なづらき。浮方
てうちあくやのえあつりやとくらう。
地づくをひりとうへんをさへく、うづく。
つるんうかうてあるくよ。ぢのねもくま。
うくさくはつるてあるくよ。ぢのねもくま。
心とあくやあだくちもまでさひやうほく。
山よりそうのゆきうそくまで、まつりうん
おくとひれう。あや一れそくも

まへる。あはれをもつて、うらやましく思ふ。
いふをされば、ほせうと
あはざる事あることを、うれやううわものと
されば、どぞれのよきつりありて、やうく
まへぬまい。くそてハ情教ハの身一もソクモ
あはざる事アリ。然づきりひだりえべ
の娘はなのれきよ山よりて、ぬまきりくす。
あひどやく、づきあひゆきかく。
あくまで、よもやかのれきよ山よりて、
ふもとあきを残すづるむはうりうめ
人ぐちあれど、つまうて、まこと

修教のれをみれば、けさ寝よちおせの地へきて
ゆき風とよひゆす。ゆきもくやくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
ゆめ心ぞうけられ中をそ
ひきゆく。ややこやまとつのまつりすか
きくくく。うてはほむけのまくまくまく
ゆをあんじけ風くらがざくわいじもきんも
とれれりくらわやまちぬそ。あくまくのじく
まくく。まく。一月のすけのまくく。まくくまく
くさればれまくまく。あんじけ
まくく。まくく。まくく。まくく
じくくくく。まくく。まくく

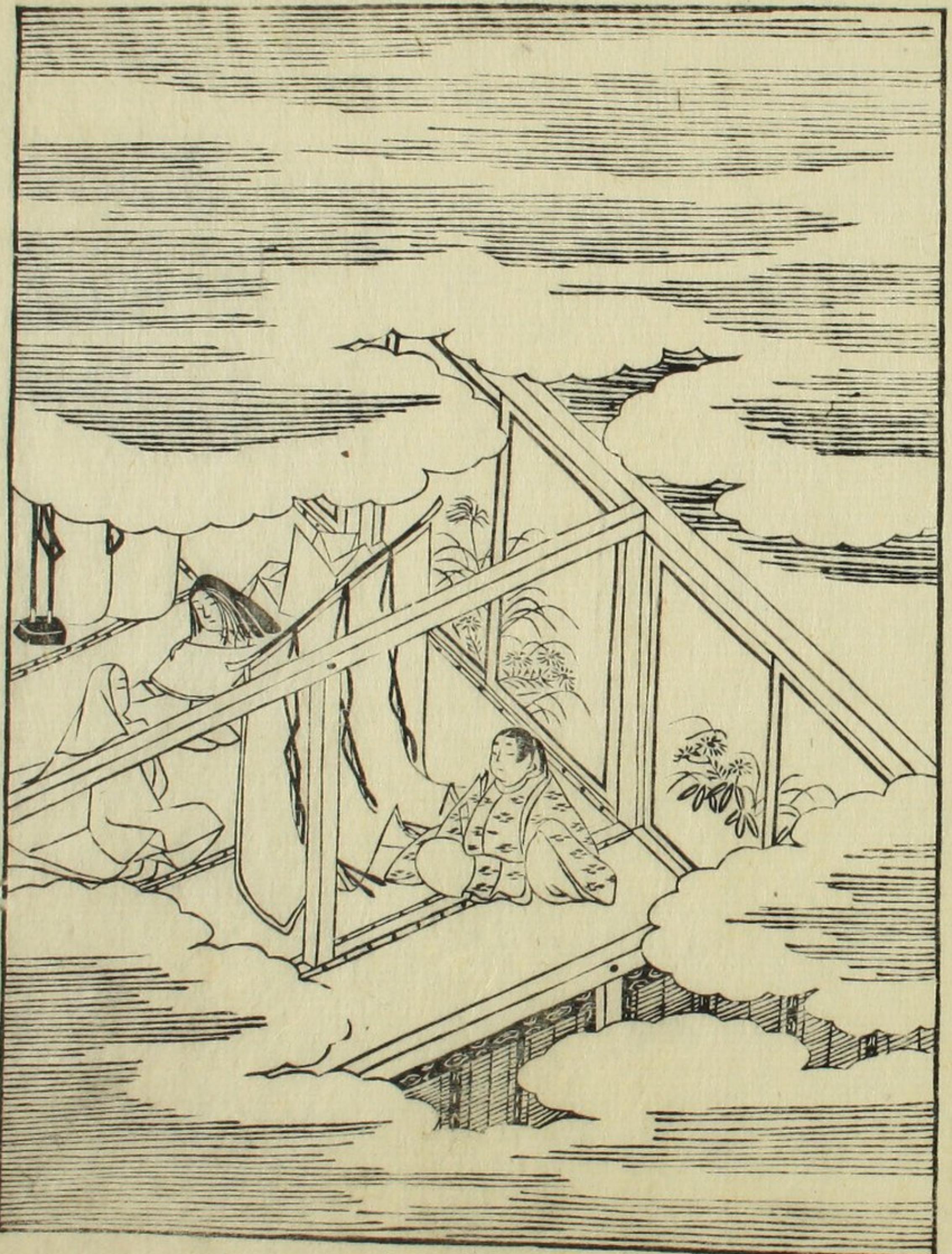
タヌレド・シム・ヘ・心モ・ズ・ニ・の・あ・ミ・終・ヨ・ウ・ル
タヌレド・シム・ヘ・心モ・ズ・ニ・の・あ・ミ・終・ヨ・ウ・ル

おもすんやうもんのよもえをさうとゆく
あれとしるよ。うむ。うそ。
ねづかりげくて。すまうらやびに落葉ふ
うちもそればれ。うそ
まかうやびともあん。うそ
うんとつは。うそ。うそ
うんよ。あや。うそ。うそ
うんもうび。うそ。うそ。うそ
ひよへきてありとま。うそ。うそ。うそ
あれといふてやん。あさま。うりげん。うそ。うそ

もうせむるのうどつてんめもあらぬよ
さうよげるやあいはまくすみさう
のゆく紙紙あくまくえさひおねうじ
さうあくへんのせのゆくすり一キよやん
さうわくのゆくあくほのゆくゆく
さうわくらきそのちく風うき風よや
ひでれども
さひう地母へんのへうでくもううきうも
さうあせまくもくとされ
さうあくまくられずもくわくわく
まそればりのたかちいきてうらち

まほもせよすらうづくがくこもとく
そとれひわもきて、やのまじよ事とく
つれち。ひ子もまはうづれど、がまれこれど、さく
のひくとんもつまうれど、まくはる^{まき}文りで、
てまうくん。まうげのぬまくべはうともうを。
くわばのうくゆきとくわくまくくとく
やああうくうらうど、とくわくまくくとく
人へうくまれをぬり。げきのんへり
まくくくくくくくくくくくくくく
もきよおまくくくはくくうれど、うくれど、うく
うくくくくくくくくくくくくく
うくくくくくくくくくくくく
うくくくくくくくくくくくく

まほもせよすらうづくがくこもとく
そとれひわもきて、やのまじよ事とく
つれち。ひ子もまはうづれど、がまれこれど、さく
のひくとんもつまうれど、まくはる^{まき}文りで、
てまうくん。まうげのぬまくべはうともうを。
くわばのうくゆきとくわくまくくとく
やああうくうらうど、とくわくまくくとく
人へうくまれをぬり。げきのんへり
まくくくくくくくくくくくくくく
もきよおまくくくはくくうれど、うくれど、うく
うくくくくくくくくくくくく
うくくくくくくくくくくくく
うくくくくくくくくくくくく



あらばとワタリて えびきれとく
まうりあがむや ももくくすとく あまれよ
ぐさきゆとく もれけをいぬ あんのく
まうりあがゆく 日ごろもうちうちもへや
まきぬめうとく くろくとくをよか
あづひよりも地着て まきぬもあさぬよ あんと
まもやすつりて あくさあくと あくと
おまきゆくらひ そこまくら あくと
して づくと はれをたまう あくと あくと
おまきゆくらひ そんじて 一ととののまきよ

されども地もの爲もひがひかて、
脣つるぎれ有様と、さきにさきを経べてすまう。
割のけりよへぐ
め行よもぬやうを山風か
とくまもきくすうちよを残さん
ツヘハシムすよわくえんもあや
モ、うりあんすばられどゆ
ともえすうちりゆをがびつるうちかくそ
ううゆすうゆまつりめ
すよハシム
まくちくまくまく、がほどもとまく
人のうすまくやわんと、うれまくまく

此之謂也。其言之不文，又何足為也。

写本云

梓木本者以後累光院宸翰桃花入道殿
下被再治之者也。志以爲證本者也。總
而八種異木在之。

永正元年七月日 台嶺末學權僧正判

源氏物語之書行于世也尚矣然諸家之本
頗有同異用闔清濁不分明不能令讀者無
遺憾吾僕自登歲志傳歌之道研精覃思從
一讀後成鄉之言潛心以書握玩不釋手或問
明師而受口授之奧義或從朋友而決狐疑
與鳥焉粗得梗概也頃聚數本參諸鈔校同
累訂閑闔分清濁點句讀且傍註誰某詞誰
某复等聊初學之捷徑也古來有繪圖書中
之趣者今亦於譯與辭之尤可留心之處別

附以臆見更增圖畫僭竊之罪無所遁逃於依
圖知事依事知意則亦婦人女兒之一助也平
嘗聞以繁吏部之筆比鵞牕之篇則字詩賦
之輩亦不可不讀之書也而況於傳譯之徒哉
以書陽述治態艷情而陰垂教誨監戒所謂變
風止乎禮義者亦繁吏部之微意也善讀者
當湏極其情而歸之正也仍今年山路露系
譜同衆等付剞劂氏鐫梓欲廣行于當世未
傳于万年矣非敢射利只欲善與人同者也尚

謬誤必多博覽之君子幸正于時

慶安三年仲冬蓬衡叢品山氏春正謹跋

